



## J-B アルティメットブラックシリコーン

J-B Weld Company, LLC

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Version No: 3.00.0.1

発行日: 2025.10.01

### セクション1 化学品及び会社情報

#### 製品に関する情報

製品名(日本国内)	J-B アルティメットブラックシリコーン	
品番	7043	
同義語(米国品番)	32329 (Ultimate Black Gasket Maker & Sealant)	
外観		
JAN	4517062 002409	

#### 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	自動車部品の接合面のシーリング剤 (耐油性あり)
シリコーンの反応副生成物	オキシムガス

#### 供給者の詳細

#### 製造者

#### 供給者(アジア総代理店)

供給者の会社名称	J-B Weld Company, LLC	株式会社 隆成コミュニケーションズ
所在地	400 CMH Road Sulphur Springs TX 75482 United States	千葉県市原市辰巳台西一丁目2-10
電話番号	903-885-7696	0800-805-6655
FAX番号	903-885-5911	0436-26-6655
ホームページ	<a href="http://www.jbweld.com">www.jbweld.com</a>	<a href="https://ryusei-usa.com/">https://ryusei-usa.com/</a>
e-メール	info@jbweld.com	contact@ryusei-usa.com

### セクション2 危険有害性の要約

#### 化学物質又は混合物の分類

健康に対する有毒性	急性毒性	区分4
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性または皮膚感作性	区分2 (皮膚感作性)
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	区分2B
	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道性刺激、麻酔作用)

	特定標の臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器)
	吸引性呼吸器有毒性	区分に該当しない
環境に対する有毒性	水生環境有毒性(急性)	区分に該当しない
	水生環境有毒性(慢性)	区分3

## GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	警告

## 危険有害性情報

H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H319	強い眼刺激
H351	発がんのおそれの疑い
H372	長期にわたる、または反復暴露による中枢神経系、呼吸器の障害
H410	長期継続的影響によって水生生物に非常に有害

## 注意書き: 安全対策

P201	使用前に取扱説明書を入手すること
P260	粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと
P264	取扱後はよく手を洗うこと
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと
P273	環境への放出を避けること
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

## 注意書き: 応急措置

P302+P352	皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと
P305+P351+P338	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
P308+P313	暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること
P314	気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること
P333+P313	皮膚刺激又は発しんが生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること
P337+P313	眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること

## 注意書き: 保管(貯蔵)

--	--

## 注意書き: 廃棄

P501	内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って、認可を受けた有害または特別廃棄物処理場に廃棄すること
------	--

## セクション3 組成および成分情報

## 物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

## 混合物

成分名	CAS番号	官能公示整理番号		%[重量]
		化審法	安衛法	
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	1-122	情報なし	<60
3-アミノプロピルトリエトキシシラン	919-30-2	2-2061	2-2061	<10
カーボンブラック	1333-86-4	5-5222 5-3328	情報なし	<5

※具体的な化学物質の特定、組成濃度については企業秘密とします。

## セクション4 応急措置

### 必要な応急措置の説明

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分が悪い時は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること</li> <li>・気分が悪い場合は医師の診断、手当を受けること。</li> </ul>
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに汚染された衣類をすべて(履物を含む)脱がせること</li> <li>・皮膚に付着した部分を多量の流水と石鹼で洗浄すること</li> <li>・汚染された衣類は再着用前に洗濯すること</li> </ul> <p>予想される急性健康影響：アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ 過剰に曝露した場合に予想される有害症状：刺激・充血</p>
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちにまぶたを指でよく開いてきれいな流水で15分～20分間洗浄すること</li> <li>・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す事、その後も洗浄を続けること</li> <li>・洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと</li> </ul> <p>予想される急性健康影響：強い眼刺激 過剰に曝露した場合に予想される有害症状：痛み及び刺激・流涙・充血</p>
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口をすぐすこと</li> <li>・飲み込んでしまった場合、意識がある場合は少量の水を飲ませること</li> <li>・嘔吐すると危険な場合があるので、気分が悪くなったらそれ以上の水は飲ませないこと</li> <li>・気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること</li> </ul>
医師に対する特別な注意事項	火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある

## セクション5 火災時の措置

### 消火活動に関する情報

消化剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火用泡</li> <li>・消火器用消火薬剤</li> <li>・炭酸ガス</li> <li>・乾燥砂類</li> </ul>
使ってはならない消火剤	水噴霧、棒状放水

### 特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	情報なし
--------------	------

### 消火活動に関する情報

特有の消化方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険でなければ火災区域から容器を移動する</li> <li>・火災時にのみ、呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること</li> </ul>
火災及び爆発の危険性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり容器が破裂することがある。 燃焼時、以下の燃焼生成物を生成することができます：</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化珪素(SiO<sub>2</sub>)</li> <li>・有毒ガスを放出することがある</li> <li>・腐食性ガスを放出することがある</li> </ul> </ul>
	本製品は水生生物に対して有害であり長期にわたり持続する影響を有する。従って本物質によって汚染された消防用水は水路下水又は排水管に放出してはならない

## セクション6 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション8を参照

### 環境に対する注意事項

セクション12を参照

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険でなければ漏出区域から容器を移動する</li> <li>全ての着火源を取り除く</li> <li>漏洩物は化学品廃棄容器に入れること</li> </ul>
大規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険でなければ漏出区域から容器を移動する</li> <li>放出現場には風上から近づく</li> <li>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ</li> <li>環境への放出を避けること</li> </ul>
他の情報	データ無し

個人用保護具に関する情報については、セクション8をご参照ください

## セクション7 取扱い及び保管上の注意

### 安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてセクション8の記載に従い、保護具を着用する</li> <li>アレルギー性皮膚炎の症状がある人を本製品を使用する工程には就業させないこと</li> <li>眼・皮膚および衣類に触れないようにする</li> <li>接種してはならない</li> <li>換気の良い場所でご使用ください</li> <li>飲食・喫煙前、取扱後はよく手を洗うこと</li> </ul>
----------	--

### 混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属缶またはドラム缶</li> <li>製造者が推奨する容器を使用すること</li> <li>換気のよい乾燥した冷所で直射日光を避け、飲食物から離して保管する</li> <li>開封した容器はきちんと閉め、漏出がおこらないようにして保管する（締めすぎてキャップを破損しないように注意する）</li> </ul>
避けるべき保管条件	湿気のある場所(硬化してしまう為)

## セクション8 ばく露防止及び保護措置

### 管理パラメーター

制限値のある物質のみ以下の表にまとめました。

### 管理濃度

物質名	CAS	管理濃度	単位
カーボンブラック	1333-86-4	E=3.0 / (1.19Q+1)	E:管理濃度 (単位mg/m <sup>3</sup> ) Q:当該粉塵の遊離ケイ酸含有率

### 許容濃度

成分	CAS	物質名	TLV-TWA※	注記	出典
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	炭酸カルシウム	10 mg/m <sup>3</sup>	総粉塵	※11
カーボンブラック	1333-86-4	第2種粉塵：カーボンブラック	1 mg/m <sup>3</sup>	吸入性粉塵	※15
			4 mg/m <sup>3</sup>	総粉塵	※15
		カーボンブラック	3 mg/m <sup>3</sup>	吸入性粉塵	※11

※ばく露限界値 / 時間加重平均

「通常の1日8時間、週40時間の時間加重平均であって、ほぼ全ての労働者が、その濃度に毎日繰り返しへばく露されても、その職業人生を通じて健康に悪影響を受けることがないと考えられる」※11

### 緊急ばく露限度

成分	CAS	IDLH ※	出典
カーボンブラック	1333-86-4	1,750 mp/m <sup>3</sup>	※1

※IDLH(脱出限界濃度):生命および健康に対して急性の有害影響を及ぼす濃度

### 職業暴露バndディング

成分	CAS	職業暴露バンド評価	職業暴露帯域制限	出典
データ無し				

職業暴露バndディングは化学物質の効力、及び暴露に関連する有害な健康上の結果に基づいて特定のカテゴリまたはバンドに化学物質を割り当てるプロセスです

## ばく露防止策

適切な工学的管理	作業により粉塵、蒸気、またはミストが発生する場合は、作業場の囲い込み、また作業環境の粉塵汚染濃度を職場曝露限界未満に保つため、排気、通風装置・換気装置の設置が必要となります
----------	--

## 保護具

眼/顔面の保護	・リスクアセスメントの結果、必要な場合は安全ゴーグル着用すること ・接触の可能性がある場合、必ず化学保護メガネを着用すること
皮膚の保護	以下の手/足の保護具を参照してください
手/足の保護	・化学製品を取り扱う際は、耐化学用の不浸透性の保護手袋 (EVOH※2、ブチルゴム、フッ素ゴム製のもの) を着用すること※1
身体の保護	以下の保護具を参照してください
他の保護	情報なし
呼吸器の保護	危険性と曝露の可能性に基づき、適切な基準又は認証を満たすマスクを使用すること

※1 厚生労働省のHPにて開示されている「皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第594条の2(令和6年4月1日施工))」及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質リスト」にて皮膚刺激性有害物質に指定されており、この物質を取り扱う際に使用する手袋は化学防護手袋である必要があります。その着用は2023年4月より努力義務、2024年4月から義務化されていますので、必ず耐透過データのある物からお選び下さい。

※2 EVOH : エチレンビニルアルコール

## セクション9 物理的及び化学的性質

## 物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	黒いペースト	蒸気密度 (大気 = 1)	データ無し
物理的状態	非流動性ペースト	比重 (水 = 1)	1.36
臭い	わずかに匂う	自然発火温度(℃)	データ無し
pH(製品)	データ無し	熱分解温度(℃)	データ無し
融点/凝固点(℃)	データ無し	粘度	データ無し
沸点/沸騰温度(℃)	データ無し	分子量(g/mol)	データ無し
引火点	データ無し (密閉カップ)	味	データ無し
蒸気圧(kPa)	データ無し	爆発性	データ無し
水溶解性	まざらない	VOC含有量	データ無し

## セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション7 参照
化学的安定性	製品は安定しており、保管条件下では安定です
危険有害反応可能性	セクション7 参照
避けるべき条件	セクション7 参照
混触危険物質	セクション7 参照
危険有害な分解生成物	セクション5 参照

## セクション11 有害性情報

## 毒物学的影響に関する情報

## 急性毒性

成分名	CAS番号	経路	試験対象	毒性	出典	区分
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	経口	ラット	LD50: 6,450 mg/kg	※11	区分に該当しない
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	経口	ラット(雌)	LD50: 1,570 mg/kg	※7	区分4
			ラット(雄)	LD50: 2,830 mg/kg	※7	区分4
			ラット	LD50: 3,650 mg/kg	※7	区分4
		経皮	ウサギ	LD50: 4,290 mg/kg	※1	区分に該当しない
		吸入(ミスト)	ラット	LC50: 7.35 mg/L 4h	※7	区分に該当しない
		経口	ラット	LD50: >8,000 mg/kg	※7	区分に該当しない

カーボンブラック	1333-86-4	経口 経皮	ラット ウサギ	LD50: >10,000 mg/kg LD50: >3,000 mg/kg	※7 ※14 ※18	区分に該当しない 区分に該当しない
----------	-----------	----------	------------	---	---------------	----------------------

## 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	ウサギ 500 mg/24h - 中程度	※11	区分3
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	ウサギ 5 mg/24h - 強度の刺激 ウサギを用いた試験にて脱毛症、潰瘍、壊死が観察された。また、可逆的ではあるが、斑状出血、中～重度の浮腫が観察されている	※1 ※7	区分2
カーボンブラック	1333-86-4	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質を4時間閉塞適用した結果、刺激性はみられなかったとの報告がある。また、ウサギを用いた別の皮膚刺激性試験においても、本物質を適用した結果刺激性はみられなかったとの報告がある。 以上より、区分外とした。	※7	区分に該当しない

## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	ウサギ 750 µg/24h - 強度の刺激	※11	区分2
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	ウサギ 100 mg/24h - 軽度の刺激 ウサギ 750 µg/24h - 強度の刺激	※1 ※1	区分4 区分2
カーボンブラック	1333-86-4	ウサギを用いた眼刺激性試験が3報あり、いずれも本物質(原液)適用による刺激性はみられなかったとの報告がある。以上より、区分外とした。	※7	区分に該当しない

## 呼吸器感作性または皮膚感作性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	モルモットを用いた試験において、皮膚刺激性が認められたことから区分2とした。	※7	区分2

## 生殖細胞変異原性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	マウスの腹腔内投与による骨髄細胞を用いた小核試験(in vivo)における陰性結果に基づいて区分外とした。なお、In vitro変異原性試験の結果は陰性である	※7	区分に該当しない
カーボンブラック	1333-86-4	In vivoでは、吸入ばく露及び気道内注入によるラットの肺胞細胞を用いた遺伝子突然変異試験で陽性、吸入ばく露によるラットの肺を用いたDNA付加体形成試験で陽性、陰性的結果があるが、その陽性結果は、本物質に含まれた芳香族多環水素類あるいは炎症にともなう活性酸素種の発生による可能性が指摘されており、カーボンブラック自体の変異原性を示唆するものとは考えられていない。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陽性、陰性的結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、マウスリンゴーマ試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である。以上より、本物質自体に変異原性はないものと考えられ、ガイダンスに従い分類できないとした。	※7 ※9 ※17	分類できない

## 発がん性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
カーボンブラック	1333-86-4	実験動物では雌マウス及び雌ラットに吸入ばく露した各試験で、肺胞/細気管支腺腫、腺がん、扁平上皮がんなど肺の良性/悪性腫瘍の頻度増加が認められた。また雌雄ラットに2年間吸入ばく露した試験では、雄には肺腫瘍の頻度の増加は示されなかったが、雌に肺の腺腫及び腺がんの発生頻度の増加が用量依存的に認められた。この他、これら2種の本物質製品を雌ラットに気管内投与した試験でも、肺腫瘍の増加が確認されている。以上の動物試験結果より、IARCはグループ2Bに、ACGIHはA3(動物に対して発がん性が確認された物質であるが、人への関連性は不明)に分類している。よって、本項は区分2Bとした。	※7 ※9 ※11	区分2B

## 生殖毒性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
-----	-------	-----	----	----

3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験では、親動物への体重増加抑制のみられる投与量で仔に仙椎骨および胸骨分節の非骨性がみられるが、明確な発生毒性は認められていない	※7	区分に該当しない
-------------------	----------	--	----	----------

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	ラットを用いた経口投与試験における動物の死亡する用量で運動失調、傾眠などの症状がみられる。また、ラットを用いた吸入ばく露試験において、立直り反射の低下、呼吸困難、自発運動の抑制、運動失調、口、鼻、眼よりの分泌物が見られ、これら症状は3日後には回復することから区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。	※7	区分3 (気道性刺激、麻酔作用)

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	ラットを用いたエアロゾル吸入試験で呼吸器系への刺激、炎症、化生様変化等が発生したことから区分2(呼吸器)とした。	※7	区分2 (呼吸器)
カーボンブラック	1333-86-4	実験動物では、本物質を雄ラットに吸入ばく露した試験では、肺胞上皮の炎症、過形成、及び線維化がみられ、肺による粉塵クリアランス速度の低下も認められた。また、雌雄ラットに2年間吸入ばく露した試験では、肺に同様に肺胞上皮の炎症、扁平上皮化生、過形成、慢性活動性炎症がみられている。なお、雌のラット、マウス、及びハムスターに吸入ばく露した結果、肺の炎症性組織変化はラットでは明瞭で、所見の強さはマウス、ハムスターよりも強く、一方、肺からのクリアランス速度はハムスターが最も速かったとの報告があり、呼吸器系への有害影響、肺からのクリアランスには種差が示唆された。この他、マウス、及びラット、マウスを用いた混餌投与試験では有害性影響は認められなかった。以上、本物質は吸入経路において、ヒトでは僅かな呼吸機能低下が示唆されているに過ぎないが、実験動物では区分1の用量範囲内で、肺に顕著な組織変化が示されたことから、区分1(呼吸器)に分類した。	※7 ※11	区分1 (呼吸器)

## GHS分類判断

急性毒性	✓	発がん性	✓
皮膚腐食性／刺激性	✓	生殖毒性	✗
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	✓	吸引性呼吸器有毒性	✗
呼吸器感作性または皮膚感作性	✓	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	✓
生殖細胞変異原性	✗	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	✓

✗ - データ無し(分類できない)、または区分に該当しない  
✓ - 分類済み

## セクション12 環境影響情報

## 生態毒性

成分名	CAS番号	エンドポイント	試験期間(時間)	生物種	試験結果	出典 / 区分
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	EC50	48h	甲殻類	331 mg/L	※7 区分外
		LC50	96h	魚類	934 mg/L	※7 区分外
		EbC50	72h	藻類または他の水生植物	603 mg/L	※7 区分外
カーボンブラック	1333-86-4	LC50	24h	甲殻類	>5,600 mg/L	※7 区分外
		LC50	96h	魚類	>1,000 mg/L	※7 区分外
		ErC50	72h	藻類または他の水生植物	>10,000 mg/L	※7 区分外

## 残留性・分解性

成分名	CAS番号	残留性	分解性	出典
		高	データ無し	※1

## 生体蓄積性

成分名	CAS番号	生物濃縮性	出典
3-アミノプロピルトリエトキシラン	919-30-2	低 (LogKOW : 1.7)	※1
		低 (BCF : 3.4)	※1

低濃縮性	※16
LogKOW(オクタノール/水分配係数)	
BCF(生物濃縮係数)	

**土壤中の移動性**

成分名	CAS番号	移動性	出典
データ無し			
KOC(分配係数)			

**セクション13 廃棄上の注意****廃棄方法**

製品/容器/包装の廃棄方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>容器は空であっても化学的な危険有害性を有していることがある</li> <li>器具の洗浄に用いた洗浄液は排水路に流出させないこと</li> <li>器具の洗浄に用いた洗浄水は排出する前にすべて回収し、適切な処理を施す必要がある</li> <li>廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市区町村に問い合わせること</li> </ul>
---------------	---

**セクション14 輸送上の注意**

陸上輸送(ADG):	危険物輸送規制対象外
航空輸送(ICAO-IATA / DGR):	危険物輸送規制対象外
海上輸送(IMDG-Code / GGVSee):	危険物輸送規制対象外
MARPOL 付属書II 及び IBCコードによるばら積み輸送:	該当しない
MARPOL 付属書V 及び IMSBCコードに従い、バルク輸送:	データ無し
ICG規範に従い、バルク輸送:	データ無し

**セクション15 適用法令****労働安全衛生法**

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条
3-アミノプロピルトリエトキシシラン	919-30-2	名称等を表示すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条、別表第9
		名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条の2、施行令第18条の2、別表第9
カーボンブラック	1333-86-4	名称等を表示すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条、別表第9
		名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条の2、施行令第18条の2、別表第9
		リスクアセスメントを実施すべき危険物及び有害物	法第57条の3

**消防法**

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
3-アミノプロピルトリエトキシシラン	919-30-2	第4類 引火性液体 第三石油類 水溶性液体	法第2条第7項危険物別表第1 第4類
		第4類 第三石油類 非水溶性	危険等級III

**じん肺法**

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
カーボンブラック	1333-86-4	法第2条	施行規則第2条、別表粉じん作業

**海洋汚染防止法**

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	有害液体物質 (Z類物質)	施行令別表第1 炭酸カルシウム

**外国為替及び外国貿易管理法**

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
カーボンブラック	1333-86-4	キャッチオール規制	別表第1の16項

## セクション16 その他の情報

### 出典元

- ※1 製造者のSDSから得られた値
- ※2 CERIハザードデータ集 / 化学物質評価研究機構(CERI)
- ※3 ECHA登録物質/欧州化学物質局(ECHA)
- ※4 JACC(Joint assessment of commodity chemicals) Report / ECETOC(欧州化学物質生態毒性及び毒性センター)
- ※5 Patty's Toxicology
- ※6 EPIWON(WHO Information Network for Epidemics Suite)
- ※7 SIDS(Screening Information Data Set) / OECD(経済協力開発機構)
- ※8 CICAD(国際化学物質簡潔評価文書)
- ※9 IARC(国際がん研究機関)
- ※10 IUCLID(国際統一化学物質情報データベース)
- ※11 ACGIH(米国産業衛生専門家会議)
- ※12 IRIS(Integrated Risk Information System) / 米国環境保護庁(EPA)
- ※13 ECOTOX(Ecotoxicology Database) / 米国環境保護庁(EPA)
- ※14 RTECS(Registry of Toxic Effects of Chemical Substances) / 米国国立労働衛生研究所(NIOSH)
- ※15 JSOH(日本産業衛生学会)
- ※16 NITE(製品評価技術基盤機構)
- ※17 DFGOT(化学物質の産業衛生に関する評価文書) / ドイツ学術振興会(DFG)
- ※18 GESTIS(有害物情報データベース) / ドイツ同業者労災保険組合
- ※19 REACH(EU 化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則)登録情報
- ※20 NTP(National Toxicology Program) / アメリカ合衆国保健福祉省(HHS)
- ※21 JFCFA(FAO/WHO Joint Expert Committee on Food Additives) / 食品添加物専門家会議
- ※22 HSDB(Hazardous Substances Data Bank) / 米国国立医学図書館(NLM)

出典元 / 作成者

### 最初の発行日

08/31/2020

### SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
2.12.2.1	04/26/2021	規制の変更
2.12.3.1	05/13/2021	規制の変更
2.12.3.2	12/28/2022	分類, 環境, 成分, 品名
2.12.3.3	01/20/2023	成分
3.00.0.1	10/01/2025	フォーマット整理、成分名を変更(NITE基準)

### 免責事項 :

この安全データシート(SDS)の情報は発行時における当社の入手可能な情報に基づいて正しいものであると考えております。記載されている情報は安全な取り扱い、使用、保管、輸送、および廃棄のためのガイドとしてのみ設計されており、保証、品質仕様とはみなされません。使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受ける物ではありません。本SDSの記載内容は指定された特定の材料のみに関連しており、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質との組み合わせての使用においては有効ではない場合があります。これらの理由からお客様がご自身の用途に製品が適合しているかご自身で評価、判断頂く事が重要です。また(株)隆成コミュニティはJ-Bウエルド社よりアジア総代理店に任命されておりますが他地域での商品の使用につきましては地域毎の代理店様にお問い合わせください。

成分名、CAS番号欄が空欄の物につきましてはコピー商品防止の為、またSDSでの通知義務が無い為、空欄とさせて頂いております。

より正確なSDSが必要な場合は弊社HPのお客様お問い合わせフォームよりお問い合わせください。